

正月よりは仕替申にて可有御座候哉其通にて差置申候得ば能乗物之棒には桐の木用不申候ゆへ二三道に相聞江申候付奉伺候、

御附札

輕き者乗候麤相なる乗物かこの棒は丸木の桐又は棒なりに割候桐もみぢかき棒にて、有來通り用可申候、

一女乗物之棒有來棒を幅五寸におとし其儘用ひ申候こと可有御座候哉之事、

御附札

山高き有來棒を五寸におとし用ひ可申候新規に仕候ば上檜無用に可仕候事、略中

一乗物之棒上檜無用と御座候下之節木杯にて用可申哉之事、

御附札

ふしの多有之下之檜用可申候事、

巳九月廿八日

元祿二己巳年九月廿九日

乗物之棒并金銀付臺之覺附御差圖加筆、

覺

一上下共に桐之棒用不苦候哉之事、

御附札

巳九月廿九日御老中御列座にて桐之棒不苦由被仰渡候、

〔享保集成絲綸錄 十九〕享保九辰年六月

覺略中